

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400624		
法人名	特定非営利活動法人 長寿会		
事業所名	グループホーム ひまわり21長洲		
所在地	熊本県玉名郡長洲町折崎633番地5		
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果市町村受理日	平成25年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成24年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の利用者への関わり・対応・思いは全て法人の理念を基礎としている。近年、職員の定着率も上がり、法人が大切にしていることへの理解も全職員に浸透してきている。「利用者様が尊厳と権利を保障され、安全に、そして穏やかに楽しく安心して毎日を過ごせるように」、私たち職員がどのようなケアをしていけばいいか、という利用者一人一人に思いをはせ、全職員が努力していることを誇りに思う。また、全職員の意識が向上することに伴い、自己研鑽にも積極的に取り組む姿勢も確立してきた。利用者の重度化も進んできているが、個々に応じた自立支援とは何か?ということを中心に考え、穏やかな日常を過ごしていただく中で、非日常的な行事(大型バスを貸し切ったバス旅行、ホテルでの敬老会)は生活に刺激・活気・張り合いを持たせてくれるものであり、利用者の楽しみの一つとなっている。事業所という垣根を越え、法人全体へ、また社会交流の場としての意味を持っており、今後も継続していきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念と併せ職員それぞれの年目標の実現に向け、この一年統括管理者は“意識を持ったケア”について日頃より、事例を通して状況や一人ひとりの職員に応じた指導を行なっている。又、同じ屋根の下にあっても、二つのユニットは入居者や環境も異なることから、合同行事等に取り組みながらも、それぞれの持ち味を活かした『家作り』が行なわれ、入居者のペースで笑顔を引き出したケアが実践されている。ホーム内で目にしたベビーカーは産休から復帰した職員のもので、働きやすい職場環境からも定着した職員体制はチームワークを深め、更に入居者への寄り添いから穏やかな時間や笑顔を引き出している。今後も“意識を持ったケア”により、入居者の満足度を追求し地域介護を支えるホームとして活躍される事に大いに期待が持たれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果 (1階ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内及びフロアに理念を掲示し、常に目に触れる様にしている。また、日々の業務の中や勉強会等でも機会に触れ職員に確認を行い、理念の共有・実践に繋げている。	法人理念四項目の中に、住み慣れた地域で最期まで安心して暮らせるように、地域との連携・福祉の整備に努めていく事を掲げている。又、職員がそれぞれ年目標を掲げ入居者の笑顔に繋げる為に自己研鑽に努めている。理念は家族・職員採用時・運営推進会議の中で説明を行う等、ホームに関わる全ての人々の共有に繋げている。	管理者は日頃より井の中の蛙にならぬよう、常に意識を持って対応する事の大切さを指導している。今後は職員の意識調査の実施を検討しており、実現により更にケアの質が向上されていく事に期待が持たれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、区役(地域の清掃活動)や地域行事には積極的に参加している。また、職員から率先して明るい挨拶や雰囲気を感じのいい事業所をアピールしている。	日頃から職員は入居者との散歩や通勤途中に、近隣の方々への挨拶を心がけ、自治会活動の清掃をはじめ地域行事へ積極的に参加し交流に努めている。近隣者からの継続された差し入れ(野菜やもち米等)もあり日々の献立や行事に活用されている。又、体験学習の受け入れ、認知症の啓発や理解に繋がる活動等法人やホームの持つ機能を地域に積極的に還元する取り組みが進められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の中学生の職場体験学習の受け入れや、地域行事に参加する事により、認知症を地域の方に幅広く理解して頂けるように努めている。「子ども110番の家」の受諾や介護保険外のサービスも行い、今年度からは物忘れ相談窓口の依頼も受け実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内での活動内容や、現状報告をすると共に、認知症についての勉強会、また事業所の行事にも参加して頂くことで、互いに意見を出し合い、出た意見については検討しケアに活かしている。	地域代表者・家族会代表・行政等をメンバーとして定期的開催されている会議は、毎回それぞれの立場からの意見や情報交換が行なわれている。記録の中からも認知症の方を地域で支えていこうとする取り組みや配慮が窺える。又、外部評価と併せ推進会議録も玄関に開示し共有に繋げている。	今年度より会議録が玄関に開示され参加されない家族への共有や会議への理解に繋がったと思われる。今後は遠方の家族へ、直近の会議の内容を知らせる事で更に会議への関心に繋がっていく事が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や研修会等を通して顔を合わせることも多く、実際顔を見ながらの報告や相談等を心がけ実践する中で、協力関係を築いている。	推進会議には毎回役所の担当者や包括職員の参加が得られており、相談やアドバイスを受ける他、地域の高齢者支援について意見交換や、ホームに出来る地域貢献を伝え取り組む等良好な関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議や職場会議の中においても身体拘束についての勉強会を開催したり、日々のケアの中でも言葉や態度について気になることがあればその都度指導を行うことで全職員が認識し、実践に繋げている。	身体拘束についての研修会の中で、スピーチロックを含め、管理者は個々の尊厳に配慮した対応について事例を通して日頃より指導を行っている。車イスはあくまでも移動の手段であり、使用に当たっては十分な配慮を忘れず、車イス利用者の状態を確認しながらケアに当たる事を申し合わせている。又、帰宅願望の方へも職員のチームワークにより、ゆっくり寄り添いのケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場会議の年間計画にも挙げ、学習している。職員のみならず、家族とも情報交換をする中で精神的ストレスや困りごと等についても出来るだけ早い時点で気づいてあげることが出来るように注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等には可能な限り参加して、伝達講習という形で学ぶ機会を得ている。しかし、まだそれらを活用できる域までは達していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約の内容・重要事項説明書の内容及び、ホームでの生活・想定されるリスクについて出来るだけ詳しく説明し、理解・納得(同意)された上で契約をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望等に関しては日々の生活の中で積極的に感じ取り、その場で話し合いを持ち速やかにケアに反映させている。家族の意見・要望に関しては、来所時の会話やアンケートから思いを知るように努めている。	日々の関わりの中で入居者の意見や要望を聞き入れ、家族からは推進会議や訪れやすいホームの雰囲気作りに努め、要望等を確認している。体調により居室で過ごす時間が多くなった方へも、ドアを開放しホームの雰囲気を感じてもらいながら、コミュニケーションを図っている。又、アンケートによる意見の収集も行なわれ、利用開始時には公的な機関についても説明を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員・現場の状況把握に努めると共に、全体会議や管理者会議などでは常に現状を伝え合い、より良い方向性を導けるように意見交換を積極的に行っている。	会議や研修会をはじめ、管理者は日頃より職員の意見や提案を確認している。法人代表者も機会ある毎にホームを訪れ、管路者と連携し職員の意見を確認したり、働きやすい環境作りに努めている。入居者のADLの低下により全員で外出に出る機会も難しく、ホーム内で楽しい食事作りを行っては？の提案により焼きそばパーティが企画された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に全体会議を開催し、その中で勉強会があったり、具体的な経営の実績報告・処遇改善など常になされており、職員の周知に至っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に応じた研修への参加を積極的に促している。法人全体で、事例研究発表会を開いたり、伝達講習を行なうことで全スタッフが学べる機会を設けている。また、様々な資格試験等についても意欲を高めるような働きかけも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の連絡協議会や近隣施設で構成するネットワーク事業の研修会や活動に積極的に参加し、同業者との顔見知りの関係作り、交流を図る事で情報の共有化、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安や寂しさ・混乱にいち早く気づき何らかの対応をする事で、1日でも早くホームでの生活に慣れて頂くことを目標に、入所当初は特に注意深く観察し、深くかわりを持つことで、安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時はもとより、入居当初は特に対話の中での表情や言動を推察したり、要望・悩み・思いを汲み取るようにしている。また入居直後はこまめに本人の状態報告を行い安心感を得ていただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている事を見極め、アドバイスをすると共に、ご本人・ご家族の意見や要望を取り入れご本人にとってより良いサービスを受けられるように、グループホームのみならず法人内のサービスも説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中のあらゆる場面において、可能な限り本人の意思(言葉・表情・行動等)を確認しながら、本人が主役として生活できるように支援する事を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を中心に家族と職員がそれぞれの立場から支援している。ホームで生活しながらも行事への参加や通院等の外出支援を通して家族との絆を継続できるよう促し等行っている。家族との情報交換も密に行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・友人等の面会、昔からのかかりつけ医の往・受診等は本人の心の拠り所となっており、本人と関わりのある方たちと連携しながら今後も継続できるように支援している。	入居者にとって大切な家族との関係が途切れないよう、訪れやすい雰囲気作りや、毎月の書類発送時に管理者より近況報告の手紙を同封し家族の安心に繋げている。又、馴染みの理容店利用、裁縫・台所作業等、特技を発揮できる機会を作り支援している。職員は尊厳に配慮しながら馴染みの方言で語りながらケアに当たったり、洗濯も全自動と併せ懐かしい二層式洗濯機を設置し使用している。	今後も入居者一人ひとりの趣味や特技、これまでの馴染みの生活について情報収集を行い支援される事に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各人の個性を尊重しながら、利用者同士が円滑な関係を保てるように支援している。場面に応じては職員がパイプ役となり利用者同士の新たな関係作りも応援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退居された場合には、お見舞いを兼ね様子伺いに出かけている。その際に必要であれば本人・家族や相談員と退院後の方向性についても話し合うことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで得た情報や日頃の会話や本人の表情・言動等、及び家族の要望等をもとに職員間で検討し、本人らしい、笑顔のある生活が出来るように支援している。	アセスメントの情報と併せ、職員は日頃の関わりの中で思いや意向を確認している。困難な場合は表情や推測もしながら語りかけ確認している。又、申し送りノートは、統括管理者が記入するホーム全体の物と、各ユニットごとのノートをはじめ記録には常に目を通し、昼・夜の情報や伝達事項等の共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームへの入居による生活環境の変化が本人の精神的負担とならないように、これまで本人に関わってきた方々から出来るだけ多くの情報を得、全職員がその情報を周知し、日々のケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送り、カンファレンス等で全職員が本人の現状把握できている。変化等あった場合にはその都度検討を行い、本人が本人らしく生活できる環境作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント・情報収集を行い、それに基づき介護計画を立て統一したケアを行っている。毎月のモニタリングでケアの妥当性を検討し、現状に即していなければその都度見直しを行っている。	統括責任者よりプランの立て方や流れ、注目したい事等を勉強会の中で指導している。優先すべきことを抜粋し、入居者の担当職員により立案し作成されたプランは、全職員が目を通し皆で作りに上げている。計画作成担当者は難しい用語ではなく理解できる内容であることを心がけている。	家族の理解しやすいプラン作成に努めており、今後は十分な説明と共に家族の状況に応じた話し合いに期待が持たれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が記録の記入・読み込みを行うことで情報の共有が出来る。記録には客観的事実と気づき・工夫を記入し、検討すべき課題に対してはカンファレンス等を行い、必要であれば介護計画の見直しもやっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況やニーズにより外出支援や通院介助を行いながら、本人の生活が豊かに、又生活に支障が生じないよう可能な限り柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃慣れ親しんだホームでの生活以外に、地域行事への参加や地域住民との関わり等があり、職員と共に地域へ出向くことでホームの事を知って頂けたり、顔なじみの関係が出来、生活の幅が広がることに繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医から診てもらうことは本人の安心にも繋がり、入居前からのかかりつけ医を継続されている方も多し。各人にかかりつけ医が確保されており、定期的な往診や異常時の対応、日頃からの相談・アドバイス等、しっかりと連携が取れている。	入居時の説明で、在宅時からのかかりつけ医の継続も可能であることを伝えており本人・家族の希望に沿った医療支援により馴染みの医師との関係継続が図られている。協力医へ移行された場合にはホームへの往診により対応している。共に情報を共有しながら、状態変化時にはかかりつけ医の指示を仰ぎ早急な対応をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に報告・連絡・相談を行い、介護職であっても看護的視点からの学びを得、日々のケアに活かすとともに、看護職と協働しながら利用者の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医からの情報提供、ホームからの生活要約の提供、また病院からの情報収集により互いの連携を図っている。定期的にホームの空床状況を報告し、希望があれば退院後にホームへ戻ってこれるような体制・連携作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時と家族会総会において、重度化や終末期支援についてホームの方針を説明することで、ホームと本人・家族の思いを出来るだけ早い段階で共有できる機会を設けている。	入居時や面会時、必要な時点で家族との話し合いの場を持ち、ホームの方針を説明しながら本人・家族の意向を確認している。入居者の思いを最優先とし、ホームで出来る支援に努めている。過去、家族が遠方であったものの地元親戚の協力を得ながら、かかりつけ医との連携により終末期支援が実施された。	重度化・終末期支援については職員の認識や協力が得られており、今後も応急手当やターミナルの勉強会をして行きたいと管理者は語っている。取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、応急手当普及員を中心に勉強会や定期的な実施講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練時には推進員や家族等にも協力を得ている。また、ホーム内にも非常食の備蓄をしたり、災害時には町内の連絡協議会での連携も図れるように整備が進んでいる。火災以外のマニュアルの整備も進めていく必要がある。	本年度、昼・夜を想定した火災訓練の中で、二階入居者を毛布など身近な寝具を使った避難訓練が実施されている。台風時には窓からベットの遠ざけたり、フロアに移すなどの対応がとられている。管理者は出勤時に建物内外の危険物を回避したり、居室の様子を確認するなど日々の安全点検を行っており、日誌の中にも点検項目を設け職員が対応している。	自然災害(地震・水害・台風)時のマニュアルの整備を検討しており、早期実現に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の第1項目に「尊厳と権利の保障」を掲げており、職員にも浸透している。日々のケアの中において、利用者に対して尊敬の念を示すことができるよう、特に言葉遣い・表情・態度(目線も含めて)には常に意識を持ち対応している。	入居者に対し敬意を持って接することを支援の柱と位置づけており、リビングに掲げられた接遇に関するマニュアルや個人情報の勉強会で職員の意思統一を図り、同じ思い、目線で対応することを心がけている。職員は移動時の手引き歩行や食事介助の際も入居者への声かけを忘れず、間合いを見ながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の生活習慣や嗜好・興味等を十分に把握し、本人の意向を引き出せるように努めている。それはゆっくりと簡単な声掛けや選択できる問いかけであり、各人の状態に合わせて行っている。決して押しつけではなく、本人が何らかの意思表示をしてくださることを待つ、という基本姿勢を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々変化する体調や感情をしっかりと見極めつつ、本人の思いや希望に近づけるよう観察・推察しながら無理や不安のない、安心した毎日が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	習慣のある方にはその習慣を継続できるように声掛け・介助を行っている。また、季節に応じた衣服の着用を、食べこぼし等の見られる方にはさりげない更衣の促し等を行い、常に身綺麗であることを心がけ支援している。外出時のお化粧品も楽しみの一つである。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下状態に応じてムセ等の苦痛を軽減するためにミキサー食の対応をしている方もいる。焼きそばやお好み焼きなどホットプレートを利用する食事の際には積極的に、本人ができる範囲で手伝いができるような場面設定も行っている。また他者に遠慮することなく食事できるよう食席も考慮している。	入居者の好みを反映し、一週間分の献立を作成している。職員は食材の形や硬さを見ながら味付けにも配慮し喉越しの良い汁物と共に提供している。体調により居室で食事を摂る入居者へもドアを開放し、リビングの雰囲気を変えながら職員が一对一で介助している。ホットプレートを使った食事作りや家族会後の弁当など目先を変えた料理は入居者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食毎に食事量のチェックを行うとともに、毎月体重測定を実施し、体重の増減も確認している。また、活動量や体調・嗜好に応じた食事の提供を行っている。こまめな水分補給も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各人に合わせた口腔ケアができるように、毎食後声掛けやセッティング、介助を行っている。定期的に義歯の洗浄も行い、義歯の不具合についても確認している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の排泄パターンに合わせ、布パンツとリハビリパンツ、一般トイレとポータブルトイレの使い分けや行動・表情等を観察しながら声掛けや誘導・介助を行い、出来るだけ失禁状態による不快感を軽減し、無理なく排泄できる支援を行っている。	職員は個々の排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄を基本として声かけや誘導を行っている。布下着や排泄用品を組み合わせながら一人ひとりに応じた支援により、入居者の不快感や家族の負担軽減に努めている。夜間帯に使用したポータブルトイレは洗浄消毒を行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事前に牛乳を飲んでいただいたり、こまめな水分補給や腹部マッサージ・運動を促したりすることで出来るだけ下剤等に頼らず自然排便ができるように努めている。下剤等が必要な方については排便状態に応じて下剤の服用量を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在、殆どの方が全介助の状態での入浴であるため、職員が一方向的に介助するのではなく、1対1の関わりの中でゆっくりとくつろげたり、入浴が楽しいひと時となるように、また安全に入浴できるように配慮することを心がけ支援している。	特に入浴の希望のない方に対しては、週二・三回の入浴を支援し、入浴中は入居者と会話しながらゆっくりとした入浴を支援している。身体レベルの低下に伴い一人介助が困難な状況になってきているが、浴槽への出入りなど必要な時意外は一人の職員が時間をかけ関わり、安心して入ってもらうよう心がけている。又、柚子や菖蒲湯などの季節感ある入浴支援も行なわれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯の睡眠状況やその日の体調によりお昼寝を促すこともある。その際も本人の希望を踏まえ、自室であったり、フロアの畳コーナーであったりする。安眠を保障するために居室内の温湿度、照明、寝具の調整や入眠までの関わりの中でテレビや職員の声の大きさにまで配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容がわかるように処方箋は個人ファイルに挟み込みいつでもすぐに確認できるようにしている。また、症状の変化や服薬の変更については全職員の周知とするために記録に残す・口頭で伝達・連絡ノートへの記載を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所での皿拭き、野菜の皮むき、洗濯物干し、たたみ、お茶入れ等、1人1人の能力・精神状態に応じて役割を持って頂き、日々の生活において自信や喜びが持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望や体調に合わせ、また家族の協力も得ながら外出支援を行っている。地域の行事や他事業所・法人主催の行事等にも参加できるよう連携を図っている。	食後の運動を兼ねた散歩や庭に出ての外気浴は入居者の気分転換となり天気を見ながら実施している。全員での外出は難しくなっているが、数名ごとに系列ディサービスへの行事に参加したり、ドライブや花見学、遠方への一日旅行などにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の意向を伺った上で本人の力量を考慮しながらの支援となるが、殆どの方は現在お金の所持はなく、家族管理となっている。お金を持たれている方については紛失等の無いように時々確認をし、また使用時にはきちんとレシートを取り、家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があればいつでも対応できる準備はできている。本人に代わり、遠方の家族に手紙を書いたり、普段の状態や用事を電話にて伝えたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状態に応じて（車いす・シルバーカーを利用される方、普段から床に座り過ごされる方、歩行状態の悪い方等）誰もが安全に過ごされるように家具の配置等考慮している。また、行事毎の写真の掲示・季節の草花を飾る等、小さな楽しみも演出している。	ユニットのドアを開けると職員の顔写真が家族や来訪者に分かりやすく掲示されている。入居者はダイニングテーブルやテレビ前のソファ、段上がりの畳で昼食後の時間を思いおもいに過ごし職員も入居者の動きに合わせてゆっくりと対応している。壁には行事や外出の入居者の明るい表情を写真で紹介し、テーブルの季節の花に心和む空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれにお気に入りの場所が確保されている。職員は其々の場所が清潔で安全であることを確認し、環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と話し合い、家族の協力も得て愛着のある持ち物、本人の現状に合った家具や寝具を持ち込んで貰っている。しかし、だんだんと利用者の状態も重度化し、居室が寝るためだけの場所になりつつある。だからこそより一層、家族の協力・職員のアイデアで居心地良く過ごせる空間作りが必要と感じる。	入居者の希望や身体状況に応じフローリングにベットを置いたり畳に布団敷きで対応し、動線に合わせてポータブルトイレの位置も決定している。全体的に持ち込みの品は多くはないが、入居者の馴染みの小物や家族写真などが飾られ、季節ごとの衣類の入れ替えには家族も協力している。	今後も引き続き居室やポータブルトイレなどの衛生管理に努め、入居者が心落ち着く部屋作りを家族と相談しながら進められることに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の確認ができるように名札や場所の表示を行っている。また、椅子の背もたれや手すり、車いすやシルバーカーを利用しながら出来るだけ目的の場所まで移動できるように家具の配置等を工夫し移動のためのスペースを確保している。		

自己評価および外部評価結果 (2階ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日出勤者全員で理念を唱和し、一人一人が理念に沿った目標をもって、業務・ケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加したり、地域行事には積極的に参加している。機関紙を発行した際は、近隣宅や関係機関に配布し事業所の活動を知ってもらうように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の中学生の職場体験学習の受け入れや、地域行事に参加する事により、認知症を地域の方に幅広く理解して頂けるように努めている。「子ども110番の家」の受諾や介護保険外のサービスも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内での活動内容や、現状報告をすると共に、認知症についての勉強会、入居者との関わりの中で互いに意見を出し合い、出た意見については検討しケアに活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	関係作りについては、概ね出来ていると思われるが、入居者の方が今以上に安心して暮らせるように協働しなければならないと思う。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し伝達講習をする事で、全スタッフが認識している。精神的な拘束に関しても常にスタッフと話し合いながら、入居者の尊厳と権利を損なわない行動・ケアを心掛けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し伝達講習をする事で、全スタッフが認識している。管理者は、常に業務内容やスタッフの人員配置等に注意する事で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人を使われている利用者が居られるが、内容は勉強不足であり、理解できていないスタッフが多いと思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約の内容・重要事項説明書の内容及び、ホームでの生活・想定されるリスクについて出来るだけ詳しく説明し、理解・納得された上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を十分な言葉で表現できない方に関しては、表現や言動で推察し、個人記録へ残したり、その場でスタッフ間で話し合いの場を設け、速やかにケアに反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や責任者会議などで、常に現場の状況を伝える場面がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に全体会議を開催し、その中で勉強会があったり、具体的な経営の実績報告・処遇改善など常になされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量に応じた研修への参加を積極的に促している。法人全体で、事例研究発表会を開いたり、伝達講習を行なうことで全スタッフが学べる機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会での活動を積極的に参加する事で、同業者との交流を図ると共に情報の共有化・地域のネットワーク作りにも力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の不安や寂しさ、混乱があれば少しでも軽減できるように入居生活に慣れるまでは、特に注意深く観察し、深くかかわりを持つことで、安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	対話の中から表情や言動を推察したり、要望・悩み・思いを汲み取るようにしている。常に情報報告を行い安心感を得ていただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている事を見極め、アドバイスをすると共に、ご本人・ご家族の意見や要望を取り入れご本人にとってより良いサービスを受けられるように、グループホームのみならず法人内のサービスも説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の作業を共に行うことで、スタッフは入居者に感謝している。業務や介護をしていると言うよりも、一緒に時間を過ごしていると思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、近状報告だけではなく、家族から情報収集する事でケアへ反映させている。行事への参加を促したり、通院等にも協力して頂きながら家族と共にご本人の生活を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へのドライブや、家族以外の方の訪問も歓迎している。可能な限り希望をかなえながら生活していただいている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流が苦手な方もおられる為、一人一人を見極めながら、孤立することのない様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された場合においても、お見舞いをかね様子伺いに出かけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	多方面からの情報収集を行い、その人の思いや訴えを表情や行動で推察し、ケアに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や主治医、ケアマネジャー等から十分な情報収集を行い、収集したものは全スタッフに周知・共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の力量に応じ、無理のない程度で力量が発揮できるように体操等にも取り組んでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケア評価を行い、プランに沿ったケアが提供されているか検討している。定期的に評価したものは、必ず家族への説明もしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに沿った記録をすると共に、状態変化があった場合は記録をしている。変化があった際は、記録だけではなくミニカンファレンスを開き常に介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズにより、気分転換できるように、ドライブや買い物などの外出支援や、個人個人にあった柔軟な対応に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉祭りに展示品を出店して見学に行ったり、地域の消防訓練に参加したりしている。又、ボランティアも受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1人1人かかりつけ医が確保されており、異常時には往診してもらったり、指示をもらったりしており、常に連携は取れている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の表情や顔色等に気をつけ、変化が見られた時には、常に相談報告、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医からの情報提供やホームからの生活要約を提供し、医療機関や家族との話し合いを踏まえて対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態を見極め、かかりつけ医・家族・事業所との話し合いを行いながら、今後の方針を検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成しており、定期的に応急手当の実施講習や、勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年に2回実施しており、他災害においては、同時にマニュアルでの確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に言葉かけには気をつけ、人生の先輩として尊敬し接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけにはゆっくり・はっきりと行い、自分の訴えが言えるような声掛けの仕方や、場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースで安心感の持てる生活をして頂く様に利用者様の意見・希望を取り入れ可能な限り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容店を利用している。本人行きつけの店がある時等は、家族に協力してもらいその店を利用している。外出時は、本人希望の服を選んだり化粧をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、盛り付け、片付けなど、できるだけ利用者様と一緒にしている。又、食事時はテレビを消し、ゆっくりと食事をしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとの摂取量に加え、月1回の体重測定を行い増減を確認している。又、活動量や体調に応じた食事の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食ごとの歯磨きやうがい等の支援、声掛けを行っており、定期的に義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアプランの内容に即したのものや、排泄チェック表を使い利用者が不快感を感じることなくトイレに行かれる様に定期的なトイレの促しをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを行い、排便がみられない時には牛乳を飲んで頂いたりしながら支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご自身で入浴される方はゆっくりと入浴されているが、時々状況を伺うこともある。介助が必要な方は出来るところはなるべくして頂き、出来ない所はさりげなくお手伝いしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎日安眠される様、環境整備に努めると共に、心地の良い入眠を促す為に、夕食後はスタッフの声のトーンやテレビの音量を下げたり、照明をやや暗くするなどの配慮をしている。又、自室の温度や湿度にも注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬追加、変更があった場合など、全スタッフに周知できるようにしている。又、服薬変更による状態変化については記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所での皿拭き、野菜の皮むき、洗濯物干し、たたみ、お茶入れ等、1人1人の能力・精神状態に応じて役割を持って頂き、負担無く活気ある生活を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や体調に合わせて、買い物やドライブ・散歩・地域行事への参加を促し、気分転換が図れる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人・家族の意向を伺い、経済状況や本人の力量(認知症状等)を見て支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からの要望があれば、その都度対応している。遠方におられるご家族には、時々手紙を書かれる様な支援を行っている。又、電話の取次ぎは随時行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	デッドスペースを有効に使いながらも、安心感が得られ落ち着く、くつろぎのある空間づくりの為、季節の草花や観葉植物、親しみのあるぬいぐるみを飾ったりするなど工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い廊下や中庭にベンチを置いたり、畳コーナーには座椅子や座布団を置くなどして、気の合う仲間同士で気軽に会話を楽しめるような空間にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、使い慣れたものを持って来て頂いたり、居室のレイアウトを行っている。状況に応じ家族と連携し、配置換えするなど居心地の良い環境作りに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を掛けたり、館内に案内の表示を用いたり、手すりを設置するなどして環境づくりを工夫し安全に生活ができるように配慮している。		